

連絡先データを送信する アプリの新たな問題

産業技術総合研究所
セキュアシステム研究部門
高木 浩光

1

問題点と論点

- 携帯電話番号を公開し検索可能にするサービスが登場
 - 「全国共有電話帳」（2012年12月）
 - 検索用アプリがスマホの連絡先データ（電話帳）をサーバに送信
 - 何をするアプリ/サービスであるかは説明されている
 - 不正指令電磁的記録供用罪の適用では対処できない可能性
 - それでもなお理解できずに実行してしまう利用者は出る
 - 当該利用者の電話番号のみならず、当該利用者の連絡先データに登録されている数百人分の第三者の電話番号その他の情報が公開状態になる
- サービス自体が「あり得ない」ものであること
 - リテラシーの低い人が第三者に迷惑をかけることを助長する（かつそれを上回る有益性が認められない）サービス
 - 「男の子牧場」（2009年）との共通性
 - コンセンサスが必要

2

経過

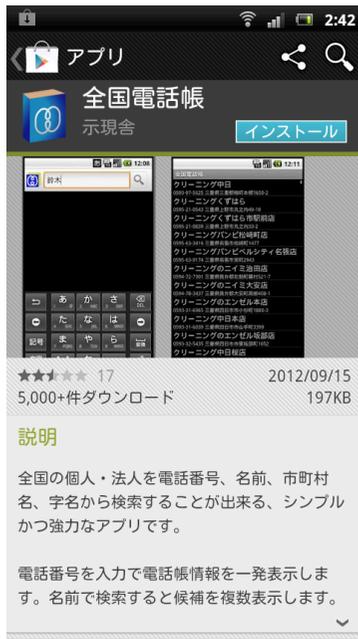
- 2012年6月ごろ「全国電話帳」（ハローページ等の検索機能）
 - 9月15日版、連絡先データとGPS情報を送信しデータベースに格納
 - 検索機能はまだ実装されていなかった
 - 10月6日、騒ぎとなり報道へ
 - 産経新聞「スマホアプリで76万人分の個人情報流出か」、10月6日
 - NHK「スマホアプリ 個人情報73万件余流出」、10月6日
 - 10月7日、Googleにより削除（利用規約違反）
<https://twitter.com/tottoriloop/status/254727168683286528>
- 2012年12月28日「全国共有電話帳」
 - 説明が改善され、アプリ初回起動時にも機能の説明がある
 - 検索機能が付き、実際に他人の連絡先データを検索できた
 - 当初気付いていた人達は黙殺、2013年1月19日から騒ぎに
 - 2月14日、Googleにより削除（理由不明）
<https://twitter.com/tottoriloop/status/301903368035643393>
- 2013年2月27日「全国電話帳 Pro」（有料）
 - 連絡先データやGPS情報の送信はなし（本来の機能のみに戻った）

3

作成者の弁

- 鳥取ループ、「住所でポン！と衆愚政治」, 2012年10月
<http://tottoriloop.miya.be/blog/2012/10/05/>
 - NTTの電話帳ハローページをネットで検索できるようにすることの正当性を主張
 - スマホの連絡先データについては触れられていない
- 月刊誌での記事
 - 鳥取ループ、「本誌『同和と在日』が全国放映！個人情報保護法とソフトウェア規制という愚民化政策」, 同和と在日7 一糾弾ビジネスの正体見たり!, 示現舎, 2013年2月, pp.89-101
 - 「全国共有電話帳」を出した直後の時点の執筆と思われる

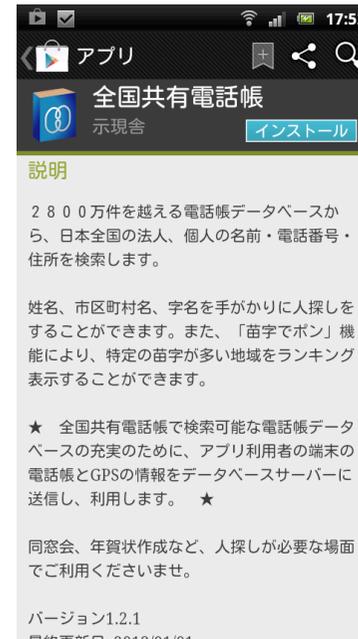
4



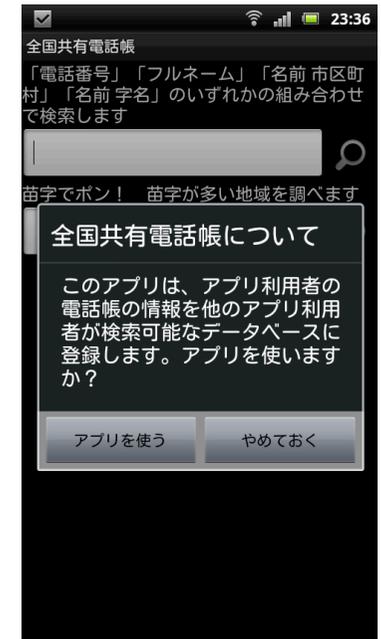
「全国電話帳」 (2012年10月)



5



「全国共有電話帳」 (2013年1月)



6

他への影響

- 連絡先データを送信する他のアプリに非難の声が飛び火
 - SNSで知り合いにつなぐ手段として多くのアプリ/サービスで行われているのが現状
 - アプリ上で送信の直前で説明して利用者の同意を得ることが必要というのがコンセンサス (米国を含む)
 - これにより不正指令電磁的記録供用罪には該当しない
 - 連絡先データを送信すること自体の是非
 - 形式的な問題 (個人情報保護法上の管理義務) と実質的な問題 (実際に迷惑がかかるものか)
 - 事業者が管理する事業用のスマホから事業用の連絡先データが送信されることは「形式的問題」に問われるか?
 - 個人のスマホから個人の連絡先データが送信されるのは「実質的な問題」のみが問われ得ると言えるか?
 - 「実質的な問題」がないと言える基準は?
 - 何をしていれば配慮されていると言えるか

7